

【成果】

- なりわい補助金や仮設工房・仮設商店街の整備をはじめ、各種支援策によるなりわいの再建を進めてきた。その際、補助金の手続き簡素化を進めるなど、被災者のニーズに適切に対応。

【今後の課題と対応方針】

- 発災から1年経つ現在も被災事業者の置かれた状況は様々であり、引き続き被災者に寄り添いながら支援を進めていく。

被害

- 震災では中小企業の被害額が約3,200億円(石川県)と推計。輪島塗の伝統産業をはじめ壊滅的な被害を受けた。
- 復興の最中、9月の豪雨災害では、再び輪島市を中心に甚大な被害(局激)を受けた。

【震災直後の輪島市】

【豪雨被害を受けた仮設工房】



(参考) 停電復旧について

- 電柱の倒壊や断線等により、1月1日に最大約4万戸が停電
- 地震及び豪雨で発生した停電は、安全確保等の観点から電気の利用ができない家屋等*を除き復旧済み

*北陸電力送配電が保安上の措置を実施：約320戸(令和6年12月18日現在)

地震による被害



(出典) 北陸電力送配電HP

地震からの復旧



(出典) 北陸電力送配電HP

取組・成果等(1年の姿)

- 現場の声を踏まえ、1月に直ちになりわい補助金等の支援を表明。同時に、伝統産業の復興、仮設施設施設等のあらゆる支援に着手。
- なりわい補助金の申請受付とあわせて、3月中に29回の説明会(延べ約4,500人参加)、全国の商工団体商工会議所からの応援を得て支援体制を充実。
- 4月には輪島塗の仮設工房第一弾を竣工。間もなく希望する全ての職人が入居可能。仮設商店街等も概ね整備を完了。追加要望に対応中。
- 9月の豪雨災害の際には、「能登半島地震と同水準の支援」を直ちに措置。令和6年度補正予算では、必要十分な追加措置を講じた。
 - ・ なりわい補助金：836件交付決定
 - ・ 持続化補助金：2,270件採択
 - ・ 仮設工房：83室整備、伝産支援補助金：265件採択
 - ・ 商店街にぎわい創出事業：118件採択、商店街災害復旧事業：16件交付決定
 - ・ 仮設商店街：9件整備完了

【輪島塗の仮設工房】



【仮設商店街】



今後の課題と対応方針

- 被災事業者の置かれた状況は様々。早期に支援施策を活用し復旧された方、仮設店舗で暫定的に商売を再開された方も居る一方、引き続きインフラや「まちづくり」の状況を踏まえて検討中の方もいることから、引き続き被災者に寄り添いながら支援を進めていく。